

3日間(12/28~30)の減産 闘争を貫徹した力で 才2波闘争の高揚へ!

日刊
動労千葉

80.1.4

No. 315

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二二五八・九・公衆(品宣)22・七二〇七

反処分・運転保安確立・35万人体制粉碎!

12月28日より三日間にわたる、わが動労千葉の不当処分抗議の減産闘争(B行動)は、1022・111減産・ストライキに引き続き、全支部・全職場で敢然と叩き抜かれた。

三日間の減産闘争を貫徹した力をもって、年末年始を通じて叩きぬかれていた非協力闘争を更に持続発展させ、来たる一月十二日の「団結旗びらぎ」の圧倒的成功をバネに、反処分・運転保安確立の才二波闘争の高揚をかちとろう!

労資安定「合理化屈服路線」と真向から対決するわいわいの叩き

今回の大量不当処分攻撃は、わが動労千葉の正当性と正義性をますます明らかにしている。去る76年春叩き処分以来の解雇処分・森山発言を受けこの、77春叩き処分凍結を千葉だけ解除しての大量不当処分。「本部」反動分子救済のためのデッキ上げ処分「職場管理強化」の攻撃。

明らかに今回の処分攻撃は、わが動労千葉が、他の一切の既存労組がひた走っている「労資協調」「再建合理化協力」「スト放棄」路線に真向から対決する叩きにうって出た事に対する焦りの政治的報復処分である。国労・動労中央が政府・国鉄当局の労資安定攻撃に完全にとりこまれ、特に動労中央の如く「貨物安定輸送宣言」「スト放棄をもって国鉄再建・35万人体制に卒先協力している現状」の中で、わが動労千葉の叩きは国鉄当局のみならず、動労「本部」反動分子にとっても、絶対にあってはならない、恐怖のマトなのである。今回の処分攻撃に際し、動労「本部」反動分子が血眼になって再三再四国鉄本社に曰参・泣訴し「大量徹重処分と千葉の職場規律の厳正」を要求したという事実こそ、今回の処分の反動的・政治的本質を更によく示している。

当局・本部反動分子らの挑発と

不当介入粉碎して、叩きを貫徹

12月28日の時を期して動労千葉全支部全職場は一斉に抗議闘争に突入した。ところがここにもあるうに国鉄当局は津田沼支部における抗議のビラ貼り・スローガン行動に対し、職制総動員で圧殺せんと「○○君やめなさい!」などとマル生攻撃時に乱発された露骨な現認・恫喝と、ひとにぎりの「本部」反動裏切り分子のかばいだてにキウウキウウとし挑発さえせんとしてきた。わいわいは「本部」反動分子と結託した当局の策動を許さず、全員の毅然たる叩きで職場を怒りのビラスローガンで埋め尽し、当局と裏切り分子を糾弾し徹底的に追いつめ、おりからの年末輸送ダイヤをガタガタにつぎ崩して力強くかちとられていった。

全組合員の総決起で才二波闘争へ

80年の冒頭を反処分運転保安確立の強力な才二波闘争でもってきりひらこう! 特に最近相つぐ線路・架線故障は再建合理化路線の直接的結果であり、乗務員乗客の安全を守るためにも極めて重要な意義をもつ叩きである。同時に「35万人体制」攻撃に先制的に攻め込み、ストを含む強力な「55.3↓春叩き」への叩き体制を全国的に牽引してこよう。この才二波反処分運転保安闘争の高揚で35万人体制粉碎・三里塚ジェット闘争勝利めざし、激闘の80年代を叩きぬこう!